

学習指導案(国語科)

指導者

一 対象 第三学年五組 三十九名

二 日時 令和元年 六月十一日火曜日 五限

三 場所 教室

四 単元名

・評論(2)(市村弘正『名づけ』の精神史』明治書院『新精選現代文B』p275～p280)

五 単元について

(一) 教材観 現代社会において名前の意味するところが曖昧になっている。そこには地域慣習、歴史の背景があるため、「生」に深く関わる「言葉の力」を思い起こす必要がある。抽象度の高い語句や言い換えの抽出を要して読み進めるべき箇所が多いため、特に論展開を意識しながら扱っていきたい教材である。

(二) 生徒観 初回の通読後に挙手で調査を行ったところほぼ全員が「全く意味が分からない」と答えた。二度目の授業を終え、数人に質問すると「なんとなく分かる」と答える生徒が多かった。説明を聞いて理解をすることには手間取らないが、自らの言葉で説明することができない生徒が多い。授業の中で発問を工夫し考えさせ、生徒自身の力で腑に落とすことが出来るよう順序立てをしたい。

(三) 指導観 難解な言い回しが多いため、内容理解の前に生徒が想像しやすい具体例を多く用いて、関心を引き寄せ、ともに分析していきたい。また、文中で特殊な意味で使われている単語の分析が、一方的な説明にならないよう、文構成から言い換え表現や、キーワードを拾いあげ、手助けしつつ読解させる。

六 単元の評価基準

言語についての知識・理解・技能	読む能力	国語への意欲・関心・態度
<ul style="list-style-type: none">・特殊な意味で扱われている語句を正確に理解している。・抽象的な表現を自らの言葉で言い換え、自身の体験に落とし込んで考えている。	<ul style="list-style-type: none">・構成や論展開を把握している。・「名づけ」の役割、そこにある文化や世界を読み取っている。	<ul style="list-style-type: none">・名づけに対する筆者の立場を理解しようとしている。・身近な体験を想像し、既成の概念にとらわれず柔軟に考えようとしている。

七 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価基準
一	一、漢字小テスト 二、音読 三、名づけに対する筆者の立場を理解する。 四、世界が名づけによって認識されることを理解する。	三、一般的にはモノが名づけに先立っているイメージがあることを自覚させる。 四、連続体、分離、組織化の先に認識があることに着目させる。	正しい漢字が書けている。 板書をとっている。 説明を聞いている。 指名されたら答える。
二	一、子どもの本来の遊びの能力を理解する。 二、②③段落の言い換えを迫う。 三、口承文芸の例とその意図を理解する。	三、子どもの名づけの仕組みを、具体例と言い換えに沿って理解させる。 四、子どもの名づけにおける、定型と即興の仕組みを理解させる。	本文に即して理解している。 具体例と関連させて理解している。
三	一、子供における名前のつけかえと物自体の変貌の関係を理解する。 二、ワークシートに沿って「世界の死滅」を文章で説明する。	一、④段落を図式化して迫う。 二、ワークシートを配布	板書(図式)を正しく追っている。 自分の力で考え、教科書に即して記入している。
四	一、特定の言葉が特定の場面でしか用いられない理由を考える。 二、生きる世界が「質的に多様」である意味を考える。 三、名づけられない事態があることから、名づけの威力を理解する。	一、図を利用して、言い換えを迫っていく。 二、この段落の主張がここにつながることを強調する。 三、名づけられないという切り口から、名づけるということを考える、裏書きを理解させる。	段落を論展開に従って整理し、筆者の主張を読みとっている。 なぜ「ナシラズ」「ナナシノキ」の例が挙がるのか理解している。
五	一、固有の名前が物語の発生を促すことを理解する。 二、民間語源説話などの例を実感し評論全体を復習する。	一、ヤマトタケルの物語を話す。神話の世界がどういう性質を持つのか理解させる。	固有性の強い名前が物語の発生を促すことを理解している。 物語産出によって、生き生きとした世界が現れるということを理解している。

八 本時案(第一次 第三時)

(一) 本時の目標

- ・ 名前に含まれる事物の秩序が、人間の世界の多様化につながることを理解する。
- ・ 「名前の威力」を説明できるようにする。

(二) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
50)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の復習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二人指名する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既出の漢字が読める。
42)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ⑤⑥段落を音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 段落が変わり、内容が大きく異なることを伝える。 	
39)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山言葉や忌み言葉の概要をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忌み言葉の例を挙げる。(結婚式、新築祝いなど) 	
35)	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントを埋める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリント配布 	
32)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図式を見ながら、発問に答える。板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図を使う。 発問 山言葉のたとえにおける「名前」「その事態」「固有の場」とは何か。 発問 「特定の存在性格」とは図のどこを指すか。 発問 「衝突」「のっぺらぼう」の意味を問う ・ 世界が「質的に多様」であることを文でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントに図を書き写しながら、内容を追っている。 ・ 発問に対して、教科書から抜き出すか、自分の言葉で表現ができる。

時間	15)	学習活動	指導上の留意点	評価
		<ul style="list-style-type: none"> ⑥段落の筆者の記述の意図を理解する。 発問にこたえ、板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「そのこと」が指す意味の説明。(前段落の復習) 発問 「ナシラズ」「ナナシノキ」はなぜ名づけられないのか。 発問 名づけることはどういうことか。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞いている。 自分の言葉で説明できる。

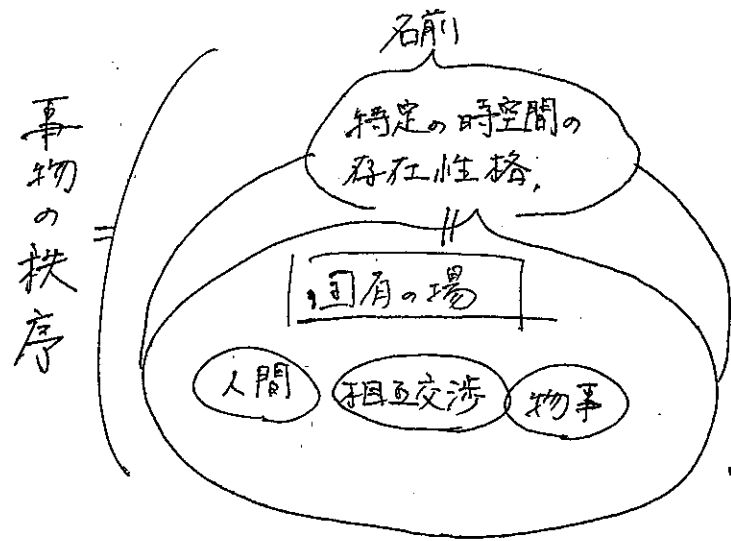
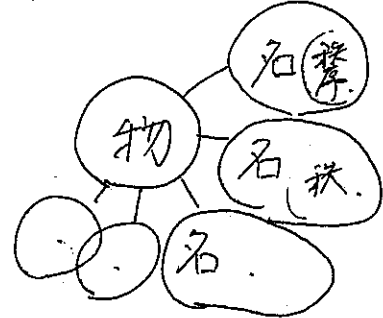
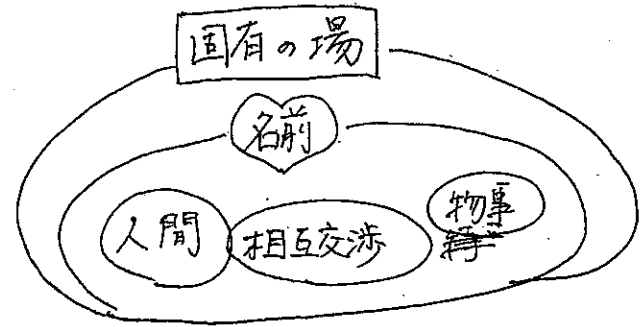
名づけの精神史

5

山言葉・沖言葉↕里言葉

禁忌・忌め言葉

結婚式：崩れる、短い
 入学式：下める、中止
 新築祝い：火、壊れる
 特定の場所だけで禁忌とされる。



事物の秩序

十 準備物

- ・カード
- ・タイムー
- ・教科書
- ・ノート
- ・ワークシート

ナニヲズ^ナ ナニノキ^ナ

名づけられない

= 名前が威力が表明されている

P278 下 問

名づけることは所有すること

名づけるは、自分たちの経験世界の秩序の中にその事物を位置づけること。

「名づけ」の精神史 ワークシート②

年 組 名前

277 ⑤段落

① なぜ山言葉が生まれるのかを考えよう。(⑤段落の中から当てはまる言葉を抜き出そう！)

米を草の実と呼ぶ場合…

① という名前は、きこりや猟師と、② との

③ の籠ったものであり、固有の経験が含まれているので、

④ でしか使われない。

山から里へ下りることを⑤段落の言葉でいうと…

「名づけ」の精神史 ワークシート③

年 組 名前

P273[2 「名前が人間とある事態(物事)との相互交渉の籠ったものであり、固有の経験を刻み込まれているとすれば、それは発せられ用いられる固有の場を持つことになる」の図を書こう。(図1)